

○高知県文化財団キャンパスメンバーズ制度 令和8年度(10月以降)対象の展覧会一覧》

1.高知県立美術館 <https://moak.jp/>

企画展	内容等	開催期間
没後 150 年 語る絵金、語られる絵金	開館以来3回目となる絵金の大規模な展覧会。 これまでの展示とは目先を変え、絵金の魅力を 多様な切り口で提示。	R8. 10. 31～R9. 1. 11
大木裕之展	高知に拠点を置き活躍した大木の多彩な創造 行為の総体を過去最大規模で回顧する。	R9. 1. 23～3. 28

常設展	内容等	実施時期
コレクション・テーマ展	様々な収蔵品をテーマを定めて紹介し、貴重な 県民財産であるコレクションに親しむ機会 とする。	年 3 回開催
コレクション・アラカルト 展	シャガール作品を中心に 40～50 点の作品を選 び、常に新たな魅力を発見・発信する。	年 5 回開催
石元泰博・コレクション展	世界的写真家・石元泰博の膨大な写真コレク ションからテーマを定めて作品を選び、紹介 する。	年 5 回開催

2.高知県立歴史民俗資料館 <https://kochi-rekimin.jp/index.html>

企画展	内容等	開催期間
「長宗我部元親の城づくりー 四国制覇に向けてー」	四国を代表する戦国武将「長宗我部元親」が 居城とした岡豊城跡に立地する歴史民俗資料 館において、長宗我部勢力が関わった四国の 城郭の縄張り図・写真や出土資料を中心に展示、 紹介すること により、城づくりからみた元親の四国制覇の 痕跡を辿る。	R8. 10. 23～R9. 1. 11
「植物とくらしー茅葺職人 川上義範さんのわざー」	「現代の名工」に選ばれた梶原町在住の茅 葺職人 川上義範氏の職人道具や茅葺の構造 模型、川上氏が修理にあたった当館の山村民 家の写真などを展示することにより、土佐伝 統の茅葺技術、また、自然と共存しながら土佐 に暮らしてきた人々の歴史や技を紹介する。	R9. 2. 26 ↓ R9. 5. 16 ※3. 31迄

コーナー展 「長宗我部家と四国」	〈2F 長宗我部展示室〉 長宗我部元親の四国統一に向けた動きや、 羽柴（豊臣）兄弟による四国攻めの資料を紹介 する。※期間中展示替有	～R8. 12
---------------------	---	---------

常設展	内容等	開催期間
・ 3 階総合展示室 ・ 2 階長宗我部展示室	● 県内の歴史や民俗に関わる通常展示	・ 通年 ・ 通年

3.高知県立坂本龍馬記念館

<https://ryoma-kinenkan.jp/>

企画展	内容等	開催期間
収蔵品展① 「幕末維新期の文化」展	幕末維新期は、油彩画（洋画）や写真のような 新しい文化・芸術が芽生える時期でもあった。 収蔵品の中から江戸期と明治期の作品から選 りすぐって展示する。 ＜主な展示資料（予定）＞ ・ 国澤新九郎の油彩画「坂本龍馬」 ・ 坂本直行の油彩画 ・ 河田小龍の日本画「虎」 ・ 武市瑞山の書画「月と梅」 など	R8. 9. 8～R8. 10. 2
よさこい高知文化祭 2026 関連企画 「土佐ゆかりの刀剣」展 （廃刀令 150 周年）	令和 8 年は、武士の象徴である刀の時代が終 わって 150 年という節目の年。 龍馬は無類の刀好きで、土佐藩の刀工だった 左行秀や吉行をはじめ、多くの刀を手にして いたことから、手紙の中にも刀の話は何度も 登場しており、龍馬の刀剣への熱量が窺える。 本展では、龍馬や幕末の土佐藩士らが持って いた土佐ゆかりの刀をはじめ、後藤象二郎が 英国女王より拝領したサーベルなどの特別展 示を通じ武士にとっての刀の意義を紹介す る。 ＜主な展示資料（予定）＞ ・ 後藤象二郎拝領のサーベル （静嘉堂文庫美術館所蔵） ・ 中井弘（薩摩藩士）拝領のサーベル （京都国立博物館所蔵） ・ 土佐の刀工である陸奥守吉行や左行秀（個人 蔵） ・ 野根山二十三士を支援した中島氏詮（うじの り）（個人蔵） など	R8. 10. 10～R8. 12. 6

収蔵品展② 「土佐藩京都藩邸史料を読み解く」	土佐藩京都藩邸史料の中から幕末の京都における土佐藩の警衛を主にテーマとする史料群を選びすぐって展示する。 ＜主な展示資料（予定）＞ ・京都情勢報告、国元情勢報告、山内容堂書など	R8. 12. 14～R9. 2. 13
「幕末土佐の天保庄屋同盟」展	「天皇に直属して土地人民を預かるという点では、大名と同じく国政に参加していると言える」というこの同盟の思想は、後に土佐勤王党への村役人層の参加へとつながっていった。 本展示では、「天保庄屋同盟」から、幕末の土佐の庄屋の動きや土佐勤王党に至るまでの流れを長州藩等との比較を交えて紹介する。 ＜主な展示資料（予定）＞ ・土佐国群書類従拾遺巻二十九（野市図書館所蔵） ・細木庵常短冊（高知市民図書館所蔵） など	R9. 2. 20～R9. 3. 31
常設展	新館と本館の両館で直筆の手紙や映像、体験型の展示で、坂本龍馬の足跡や幕末維新期の歴史のエッセンスを紹介している。	—

4.高知県立文学館

<https://www.kochi-bungaku.com/>

企画展	内容等	実施時期
生誕 100 年記念 松谷みよ子展 ～こころの学び舎～	松谷みよ子の 生誕 100 年を記念した展覧会。「お月さんももいろ」に代表される土佐民話の採話・創作もされており、その生涯をひも解きながら作品の魅力に迫る。	R8. 10. 17～R9. 1. 11
ちちははの目子どもの声 ～文学作品にみる親子像～	文学作品の大きなテーマのひとつである、親子の関係を描いた作品を紹介。安岡章太郎の『海辺の光景』、田宮虎彦の『絵本』など子の視点から親を見つめた作品、幼い我が子を想って編まれた清岡卓行の詩集『幼い夢と』など、親の視点から描かれた作品…。確執、愛憎、または深い愛情など、様々に交差する親子の姿を文学の視点から読み解き見えて来る私たち人間の心のありようを見つめる。	R9. 1. 23～R9. 3. 28

常設展	内容等	開催期間
概 要 企画コーナー 西澤保彦追悼展・「やまもも」 紹介・収蔵品展 寺田寅彦記念室 宮尾文学の世界	常設展示室では、収蔵資料を中心にローテーション方式で入れ替えを行うことにより、いつ来館しても新しい文学との出会いを感じ、60 数名の顕彰作家と作品の魅力をより深く理解していただけるよう取り組んでいる。令和 8 年度は森下雨村、倉橋由美子、上田秋夫について新たに入れ替えを行い、詳しく紹介している。 本格ミステリーと S F 要素、緻密なロジックを融合させた独特の作風で知られる西澤保彦さん（1960～2025）を偲ぶ追悼展を開催し、その歩みを紹介する。そのほか高知県こども詩集「やまもも」の紹介、吉井勇の旅行中の書簡や田中英光資料など、当館の新収蔵資料を展示している。 寺田寅彦記念室では、寅彦の趣味の一つである絵画に焦点を当てた展示の第 2 弾として、寅彦の絵の全盛期である大正 7～9 年頃の作品を中心に紹介している。 宮尾文学の世界では、歴史小説『天璋院篤姫』、『東福門院和子の涙』、『宮尾本平家物語』、『クレオパトラ』の 4 作品を紹介している。	通年